

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	14-135	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Genetic polymorphisms of ADH1B, ADH1C and ALDH2, alcohol consumption, and the risk of gastric cancer: the Japan Public Health Center-based prospective study. ADH1B・ADH1C・ALDH2 の遺伝子多型とアルコール摂取による胃癌リスク		
執筆者		
Hidaka A, Sasazuki S, Matsuo K, Ito H, Sawada N, Shimazu T, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S; JPHC Study Group.		
掲載誌		
Carcinogenesis. 2015 Feb;36(2):223-31. doi: 10.1093/carcin/bgu244.		
キーワード		PMID
遺伝子多型、胃癌、飲酒		25524923
要 旨		
目的： アルコール摂取、アルコール脱水素酵素 (ADH)・アルデヒド・デヒドロゲナーゼ (ALDH) の遺伝子多型と胃癌発症リスクの関係は、完全には解明されていない。日本人一般住民のコホート内ケースコントロール研究(1990-2004 年)を使い、ADH1B (rs1229984)・ADH1C (rs698)・ALDH2 (rs671) 遺伝子多型と飲酒量の胃癌発症リスクとの関連を調べた。		
方法： アンケートと血液提供に応じた 36,745 人の中から、457 人の胃癌発症者とそれにマッチさせた 457 人を分析対象とした。オッズ比はロジスティック回帰モデルを用いて計算した。		
結果： アルコール消費量及び ADH1B (rs1229984)・ADH1C (rs698)・ALDH2 (rs671) の遺伝子多型と胃癌発症リスクの関連はなかった。しかしながら、環境因子と遺伝子の相互作用を考慮に入れると、ADH1C G 対立遺伝子保因者のうち、エタノール換算にして酒 150g/週を飲む者は、AA genotype 保因者で酒 150g/週未満の者と比べて胃癌発症リスクが 2.5 倍だった(P for interaction = 0.02)。ALDH2 A 対立遺伝子保因者で酒 150g/週を飲む者もまた、GG genotype 保因者で酒 150g/週未満の者と比べて胃癌発症リスクが増加した(オッズ比= 2.08, 95% 信頼区間 = 1.05-4.12) (P for interaction = 0.08)。		
結論： アルコール消費と胃癌発症リスクの関係を調べるためには、アルコール消費量と ADH1C と ALDH2 遺伝子多型の両方を考慮に入れることが重要である。		